

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

次々と誕生する新星たち

スポーツを観戦していて、勝ったり、負けたりを楽しむためのエッセンスは、スーパースターに対して、何人ものチャレンジャーが挑むパターンの試合展開にある。相撲でいえば、横綱。ゴルフでいえば、メジャーチャンピオン。陸上であれば、メダリストか世界記録保持者。そんな世界チャンピオンを中心に、スポーツというコンテンツもドラマが展開される。中でも面白いのが、よくマラソンで見られるようにトップ集団にたくさん選手がいて、誰が勝利を手にするか分からない展開ではないだろうか。

現在の日本の女子ゴルフがまさにそのパターンに当てはまる。渋野日向子や小祝さくらなどの黄金世代（1998年生まれ）、古江彩佳や西村優菜などのプラチナ世代（2000年生まれ）、そして、笹生優花や山下美夢有などの新世紀世代（2001年生まれ）。これらの続々と生まれる新星が20名程度。それぞれが実力者で甲乙をつけがたく、誰が勝つかは分からない：そんなラッシュアワーの時代は歴史的に初めてだ。

先日行われた『ソニー 日本女子プロゴルフ選手権大会』（喜瀬カントリークラブ・沖繩）では、そんな彼女たち新星の中で、頭角を現しはじめた竹田麗央がこのメジャーの栄冠を手にした。若干21歳の竹田は恵まれた体型から生まれる男子ゴルフ並みの飛距離と、幼年期から培ったグリーン周りの小技と、直感的なパターの技術を身に付けている。既に今期6勝をゲットし、圧倒的な強さを誇っている。さらに、ギャラリやテレビカメラ、先輩、ライバルにも動じない精神力の強さと、ややあどけなさが残っているものの、冷静にポーカーフェイスでプレーする姿には、世界でも通用する素養を感じる。

ゴルフファンを自称する友人の一人が、とにかくこれだけ次々とスター候補が現れると名前も覚えられないと、苦笑していた。

女子プロゴルフマーケットにおいては、日本ゴルフ市場一番恵まれた時代になるのではないかと思っ。その一方で、世界評価では、メジャーで勝つことではないか、その名前を歴史に刻むことはできない。

全米女子プロを制した樋口久子と、賞金王に輝いた岡本綾子の実績が、何よりそれを証明している。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。